

モノの棲み家、ヒトの棲み家

昭和から平成の時代にかけて、大阪・美章園に暮らした中田静さん。彼女の「自宅」には、膨大な生活財や日用品が遺されていました。主人亡きあとも存在し続ける衣類や食器、瓶詰・缶詰の食品類、それらをおさめる家具、造花やぬいぐるみなどの置物、仏壇にしまわれた戦死した兄との書簡——そうした集合体を目の当たりにするとき、「自宅」とはヒトの棲み家であるとともに、モノの棲み家でもあるということに思い至ります。本展では、武庫川女子大学附属総合ミュージアムが2009年来進めてきた調査・研究の成果を活かしながら、「自宅」におけるヒトとモノの關係に着目した新たな視点で、中田家コレクションに迫ります。



中田静さんの「自宅」より



自宅レイヤー1
溢れるモノたち
マキシマリスト、静さん



砂糖

とにかくたくさんのモノを所有していた静さん。昨今流行りの持たざるミニマリストとは対極を行く、その豊饒さから見てくるものとは？



スーツとその購入記録(左、右上)、鍋(右下)

イラストつきで書き留められた衣服の購入記録や、チラシで包装し、外側に品名が記載された道具類。コレクターとアーキビストの顔もあわせもつ、静さんスタイルに迫る！



ぬいぐるみ(左)、手紙(右)

遠い戦地に赴いた兄とのやりとりは、仏壇のなかに大事に保管されていました。モノを通じた自宅と外部世界のつながりを考えます。

武庫川女子大学附属総合ミュージアム

Mukogawa Women's University Museum

〒663-8184 兵庫県西宮市鳴尾町1-10-21 アクセス: 阪神電車「鳴尾・武庫川女子大前」駅から徒歩5分

電話: (0798)45-3509 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/~museum/>

HPで新型コロナウイルス感染症対策および最新情報を必ずご確認の上ご来館ください。

